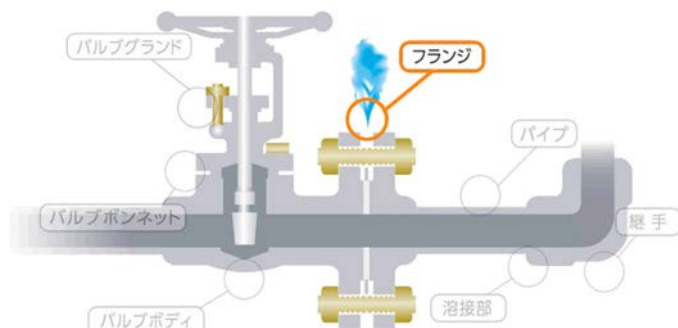


フランジからの漏洩を プラント稼働した状態でとめるには？



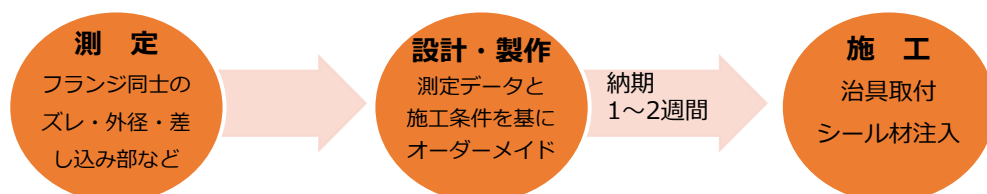
フランジは配管と配管の接続に用いられ、ガスケットをボルトナットで締めつけて密着させることで隙間を無くし、内部流体の外部漏洩を防いでいます。

運転中に漏れが発生する場合、原因の多くはガスケットの劣化にあります。運転を継続した状態でガスケット交換は非常に困難です。

ファーマナイトのクランプ工法なら・・・

- ★ フランジの隙間が広くても、流体圧力が高くても対応可能です。
- ★ 設備停止にとまらなう、経済的ロスや納期遅れを回避できます。
- ★ シール材には接着性がないので、分解整備が簡単です。
- ★ 穴あけ加工が不要なので、フランジを再利用できます。

施工までの流れ



施工方法

Step 1)

フランジの隙間に治具(クランプ)を取付けます。

Step 2)

予めクランプに加工してある貫通穴にアダプターを取付けてシール材(右図: 緑)注入します。

Step 3)

ガスケットとクランプの間にシール材がいきわたり漏れがとまったことを確認して注入器具を取外し、閉止プラグを取付けて補修完了です。

